

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.16 平成26年3月11日発行
発行責任者：八木 博

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
mail info@soya-teachers.org web :http://www.soya-teachers.org

私たちの運動を確かめ合い、

未来へつながる1日

第25回定期大会

二月二日、第二五回定期大会を行いました。組合活動の一年間の節目となる定期大会には、二四本の発言がありました。私たちが進めてきた活動がどうであったか、これからの一年間の私たちの活動についてみんなで考え合う一日になりました。

今回の定期大会には、午前中の議案の提案などの中で、最近の社会情勢や教育課題について触れる場面が多くありました。もちろん、宗谷教組のこれまでの歩みと、これからの方針についての提案もあり、こうした話を受けて各支部・専門部などから二四本の発言となりました。

（情勢や組合用語など）
「難しくわかんない」「
と言えること。」

組合旗に書いてある「教え子を再び戦場に送るな」という言葉。ちよつと前の頃までは「何をそんな大げさな…」という感じがしましたが、最近の国会のニュースを見ると、この言葉の意味を考えざるを得ない情勢にあります。…とはいえ、社会情勢や教育課題

について知ることや考えることはなかなか骨が折れる作業です。

一方で、組合の学習会などでこうした情勢を学ぶことの大切さを語ってくれる発言もありました。大切なのは、みんな「わかるように語り合っていくこと」。そのためにも、こうして「難しくわかんない」と話してくれることはありがたいものです。

組合加入のきっかけと、
そのときの雰囲気や
つたえてくれる発言。

今年は、組織拡大が相次ぐ一年でした。定期大会でも、組合に加入された先生の発言や、組織拡大の取り組みについて語られました。組合に入る前のイメージや、加入の決意の瞬間などを語ってくれるの

は、やはりいいものです。

いま、起っていることを
どう見るかという視点

忙しい毎日、私たちの身の回りでは様々なことが起こります。組合は、こうした出来事に対して「どう見るか、どう考えたらいいか」をみんなで考え合える場でもあります。

子どもたちの学ぶ環境や生活が良くなるよう、
教職員として力を最大限に発揮しよう

「組合員のみんなの創造力と実行性という部分で、活動的になってきた」定期大会でのみなさんの発言から宗谷教組の活動をこのように総括できると思います。そして、そこに自信を持ちましょう。

時代は大きく変化をしています。今までの時代になかったくらいに管理と統制の教育施策が進んでいます。この先の未来は先人も、私たちもわかりません。だからこそ、いま、組合にいる私たちが要求と願いで一致する。そのために必要不可欠な部分が成熟してきたといえるでしょう。

自分たちの教育要求・生活要求はもちろん、目の前の子どもたちの学ぶ環境や生活がより良くなることに意識を集中させるための活動を、そしてこの活動を豊かにする組織拡大・組織強化の取り組みをこれからも大切にしましょう。



定期大会では、中頓別や稚内から、こうした視点を含んだ発言がありました。こういう視点で語り合えることが私たちの活動を豊かにしていきます。中央委員会や定期大会では、大切にしたい視点です。

職場の数だけ方法はあるはず！

分会として校内人事を考えよう！

「学校づくりと人事の取り組み」のしめくくりへ

三月十二日。内示です。宗谷教組として九月から半年間取り組んできた「学校づくりと人事」の取り組みは、残すところ「校内人事」の分会議論となりました。あと少しで新年度。これまで学校を引っ張ってくれた仲間を送り出し、新たな仲間と出逢う季節。最善のスタートが切れるよう、年度末の忙しい中でもみんなで春からの学校づくりを考えましょう。

校内人事に責任を持ち、 分会・職場で議論しよう

「うちの分会は、校内人事まで手が回っていない」という愚痴（!?）を耳にすることがあります。分会長さんには、人事闘争集中体制の中で、校長先生との情勢の確かめ、該当する先生との懇談、さらなる分会要求書づくり…と、最前線で力を発揮してもらおうとになります。

内示が終わって、人事の「入り」が見えた段階で安心するわけではありません。校内人事についても、これまでに取り組んできたように、分会の力を発揮するのです。「次年度の学校を引っ張る立場」として春からもがんばる先生方の想

いを聞き、分会要求としてまとめる。さらには、「入りの先生」と連携をして春から一緒にがんばることへの激励や不安な想いを聞く…などできる

ことはたくさんあります。年度末、卒業・進級の忙しい時期ですが、もうひとふんばりして、分会の人事要求を追求しましょう。

大切なのは区別と関連。

教職員集団として、分会として

「学校づくりと人事」を考えよう

各学校では、教職員集団として「校内人事委員会」や「校務運営委員会」などで、校内人事を考えます。秋に校長先生から出された新年度に向けた学校づくり・学校体制の方針をもとに、具体的な人的配

置を学校として進めます。分会としては、これまで学校づくりと人事の取り組みを土台として、さらなる分会議論で校内人事についても検討を進め、分会として校長先生との懇談を進めましょう。

校内人事と分会力 こんな工夫をしてみませんか？

先生方に声かけをしてみんなで討議

職場には宗谷教組の先生はもちろん、他の組合の先生や、組合に入っていない先生がいます。宗谷教組の分会発信で職場の先生方に声かけをして、校内人事について考え合う機会を設けるという方法です。教職員集団とは別に語り合う機会に集い民主的に校内人事を考える場を組合の呼びかけで設けている分会も少なくないようです。（もちろん、教職員集団、分会、そしてこうした討議、それぞれの独立性（意見の相違など）は認められべきというのは言うまでもありません。ただ、「みんなで学校づくりを考える」ということに意味がある取り組みですね。）

校内人事でも分会要求書

秋からの学校づくりと人事の取り組みで、分会要求書を作成してきました。校内人事でも同様です。分会会議で校内人事案を作成し校長先生と懇談をする分会もあるようです。

公的な「校内人事委員会」を受けての分会論議

これが一番オーソドックスかもしれません。校内人事委員会での公的な議論を受けて、課題や問題などを分会で議論。その結果をもとに分会執行部が校長先生と懇談という方法です。これまで一般人事の際に行ってきた分会力を校内人事でも発揮していきましょう。

宗谷の四季

▼あつというまに3月も半ば。稚内の大規模中学校ではすでに卒業式も終え、どんどん年度末に向かっていきます。出逢いと別れの季節にわくわく・どきどきするのは子どもだけじゃないはず。「大晦日とお正月」という節目とはまた違う、雪解けとともに訪れる高揚感に包まれるいい季節です。

▼裏面では校内人事について触れました。毎年聞く「苦しいなあ」と思うことに「異動してきた先生が大変な学級を持つ」という話が。様々な事情を理解と納得で乗り越えて、先生方みんなが「そうだ!」と言える一致とともに、春を迎えたいですね。